



走る理由わけ

高校時代は帰宅部で走るのが苦手だった。そんな私が走るようになったきっかけは、天国に逝った娘との別れという辛い苦しみから逃れるためだった。それから私は自分を痛めつけるように走った。仕事が終わってから30キロメートル走。家に帰ると深夜12時を回っていた。羽ノ浦の自宅から鳴門まで走る。自分がどこまで走れるのかわからなかった。

そしてレースに出場。ゴールしたとき、今まで生きてきた中で味わったことのない感情を覚えた。心がリセットされたような感覚や達成感、カタルシス。それから私はますますマラソンにのめり込んでいきます。その後、マラソンブームが



羽ノ浦 圭介さん

到来。とくしまマラソンをはじめ、今まで出場したフルマラソンは30回を数えた。大会や練習を通して、たくさんのランナー仲間に出会い、走ることが苦しいだけでなく楽しさへと変わっていった。

私は、市民ランナーの夢でもある「サブスリー（3時間切り）達成」を墓前で誓った。しかし、その思いとは裏腹にこの壁を破れずにいた。もう自分には無理かもしれないと諦めかけたときもあつたが、走り始めて7年目、ようやく海部川風流マラソンでサブスリーを達成。ゴールする前からさまざまな想いが込み上げてきた。多くの仲間から祝福を受け、涙は止まることはなかった。

毎回、フルマラソンを走り終えると、仲間たちとお互いの健闘をたたえ合う。私は、そんなマラソンに出会い、救われたのだ。

次は、羽ノ浦町の泰地孝志さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

佳作 佐々木夫美

申の年み度迎ふる男孫の育児のさまをじつとみつむる

佳作 近藤美智子

白梅の枝のしだれや花すだれ朝日にまぶし春のことぶれ

佳作 水口 明美

春耕の田に瑞瑞と蛙鳴き花冷えの空温もりてゆく

佳作 青木新太郎

温かく迎えてくるる思ひせりそつと凭れてみたぎ板壁

佳作 山本 賀代

「合格した」喜び弾ける孫の顔さあここからはじいじの出番

佳作 賀上 花子

木蓮のロケット空を突き上げて春を待ちおり夫三回忌

佳作 山西 成彬

何時かまた逢う日のあらん遙かなる深き想いに枇杷の花咲く

俳句

阿南市俳句連合会選

無人駅大きな時計に月明かり

荒谷 隆文

祖谷谿に祭り過ぎたるかづら橋

藤崎 稔

老ゆる身の置きどころなき残暑かな

山野 賢治

松陰に風生ふ棧敷海の家

鎌田 秋穂

瑠璃色の露草小溝埋めけり

数藤 恵子

逝きし子の齢を数うる盆供養

田口 恵水

蜘蛛の糸顔にひっかけ朝刊を

笹田 知睦

蝉しぐれ盲導犬の聞く落語

庄野 早苗

命日と決められ参る終戦日

寿田 淳乃

ランドセル抱えて走るにわか雨

藤田 慶子

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

年の差を隠して着ようパールック

橋本 征介

雨にぬれても心穏やか夏の道

佐藤つたえ

うちの子と言って指さす犬と猫

西田 修身

老残につつかい棒の妻がいる

臣守 愛香

笑顔には笑顔で返す風見鶏

滝川 太郎